

司法書士事務所オルティ 代表 中村育美



前職では救急の看護師をしていました。

オルティでは生前対策や遺産承継を、単にお手続きとして終わらせるのではなく、ご家族として、もう一步踏み込んだ話し合いのきっかけにして欲しいと考えています。

“病気を患ってしまったらどうしよう” “認知症を発症してしまったらどうしよう”

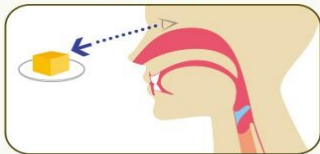
このような不安は財産対策のみでは払拭出来ません。

この通信では、健康や医療に関する内容を中心に情報発信しております。

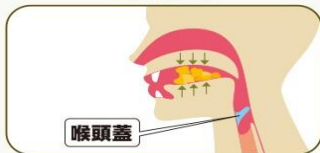
“もしも”を考える上で、参考にしていただけたら幸いです。

【食事が摂れなくなったらどうなるの？】

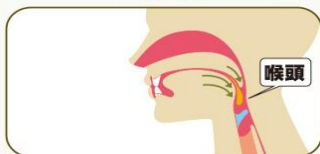
先行期



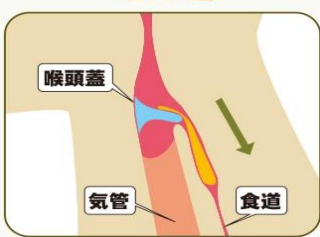
準備期



口腔期



咽頭期



食道期



—食事をするって実はとても難しい—

普段、特に意識をしなくても、吸った空気は肺の中へ、食べたものは胃の中へと、当たり前前に送られていきます。「空気を吸ったから喉をこうして…」「食物を噛んでから唾液をこれくらい出して…」などと意識しなくても、身体は自然に反応し、適切な対応をしてくれています。しかし、これは非常に緻密で、複雑な身体構造と機能が集結してこそ成せるものであり、決して“当たり前に出る”ことではありません。

食事を呑み込むまでの間の過程は次のように分類されます。

- ①先行期…食物を認識することで、食事をしよう！という行動が生じます
- ②準備期…咀嚼により食物を粉碎し、唾液と混ぜ合わせて柔らかくします
- ③口腔期…舌や頬を使って食物を咽頭(喉の奥)へ押し流します
- ④咽頭期…呼吸をしているときには開いている【喉頭蓋】という蓋が閉じ、気管に入らないように防御をしながら、食物を食道へ送ります
- ⑤食道期…食物が食道を通過し、胃に送られていきます

胃の中へ送られた食物はその後、十二指腸→小腸(空腸・回腸)→大腸へと続き、栄養や、水分をたっぷり吸収された後、便として排泄されます。

空気は肺へ、食物は胃へ、この仕分けをしているものが【喉頭蓋】であり、食事の要と言えます。しかし、機械のようにいつでも完璧に機能出来るわけではありません。皆さんも、食物や唾液などが気管に入りそうになってむせてしまった経験はあると思います。万が一、気管に異物が入り込んでしまったときには、次の防御システムが作動し、咳嗽反射(がいそうはんしゃ) (=むせ)によって、気管の外に異物を吐き出そうとする反応が起こります。

加齢により様々な機能が弱まると、喉頭蓋がうまく閉じなくなったり、咳嗽反射が起こりづらくなり、気管内へ異物が入り込みやすくなります。こうした状況を、専門用語では【誤嚥のリスクが高い】と言います。

肺は無菌の領域ですので、食物や口腔内の細菌が侵入・繁殖すれば肺炎を起こします(誤嚥性肺炎)、大きな食物が気管に入り込めば窒息を起こし、最悪の場合死に至ります。反射機能の弱い高齢者の誤嚥は、想像以上にサイレントに起こるため、気付いたら窒息していたというケースは決して珍しくありません。

—食事が摂れなくなる時とは—

食事をするという一連の流れには、多くの機能が連続的に関わっており、どれか一つの機能に問題が生じると、口から飲食すること(経口摂取)が難しくなります。

食事に影響する一例	原因	対策
食事が見えない	失明 半側空間無視	配食の位置や声掛けの工夫
食事を認識出来ない	認知機能の障害(認知症など)	声掛けの工夫、食事の介助 食生活リズムの確立
上手く咀嚼出来ない	歯の欠損、入れ歯の不具合、歯茎の痛み 咀嚼筋の筋力低下	歯科・口腔外科と連携し原疾患の治療 口腔ケア 咀嚼筋のトレーニング
食物を上手く呑み込めない	神経疾患、筋疾患、加齢	誤嚥のリスクが高く極めて危険 →人工栄養を検討
食物を消化出来ない	酵素・消化液分泌機能の低下 消化管疾患	食事の形態・内容の変更
身体が栄養を必要としない	老衰	需要を満たす程度に摂取量を調整

【身体が栄養を必要としなくなる状況】とは—

人は死の間際まで栄養を必要としているわけではなく、栄養も、水すらも必要としなくなるタイミングが訪れます。これは「食べたくない」という意思による拒絶ではなく、身体がそれを必要としていない状態です。必要としていないのに、無理に栄養や水分を投与してしまうと、体内の代謝が追いつかず、消化不良や、水分過多による浮腫みを生じさせ、結果として苦痛を増大させてしまいます。皮膚がパンパンに浮腫んで裂けてしまうことは珍しくないですし、特に心臓が弱っている患者さんの場合、過多になった水分は肺に溜まりやすくなるため(肺うっ血)、酸素の取り込みが出来なくなり、激しい呼吸困難をきたします。

お看取りの場では、「点滴だけは最期までやって欲しい」と望むご家族も多くいらっしゃいます。しかし、場合によっては、これ以上は患者さんの負担になってしまうことを説明して点滴を中止したり、もしくはご家族のお気持ちを汲みとって点滴を続けるが、極微量しか投与しない、などの対応をとることもあります。

栄養は生命維持に必要不可欠ですが、生きている限り、最期まで摂り続けなければならないものではない、ということは知っておく必要があります。一方で、【食事を摂らなければならないのに、それが出来ない状況にあるとき】には、リハビリ等で改善を目指しますが、改善が難しい場合には、**経口摂取以外での食事方法**を検討していきます。

—経口摂取以外の食事方法—

経口摂取が難しくなると、経腸栄養や点滴による方法を検討しますが、各々適応が異なります。まず重要な前提として、**栄養は消化管から吸収することが基本**となります。

消化管は重要な免疫機能を有しており、全身の免疫系の約 60~70%を担っています。人間の臓器は使わないと細胞がどんどん萎縮していきますので、使用しない期間が長くなるほど正常な機能を失っていきます。消化管の機能に問題がない場合には、基本的には胃ろうなどの経腸栄養を選択することが第一選択となります。

人工的な栄養摂取方法を導入することで、誤嚥や栄養不足等の危機が回避され、寿命は延伸しますが、どの程度伸びるのかについては、その方の身体状況に左右されます。2年とも数か月とも言われ、明確なデータはありません。

栄養補給の投与経路



—それぞれの違いについて—

①経鼻チューブ



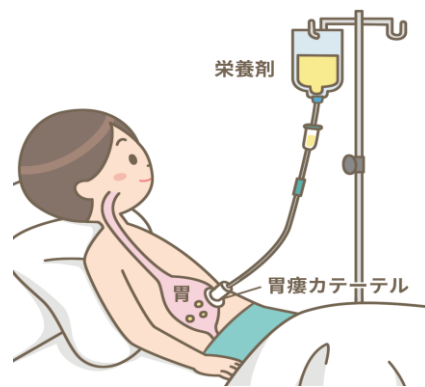
メリット

- ・いつでも抜去(中止)出来る。
- ・手術が不要なので導入の負担が少ない。
- ・消化管を使用出来る。

デメリット

- ・抜去事故のリスクが高く、認知症の患者さんの場合、ミトン(手袋のようなもの)を付けて手の自由を制限させる必要もある。
- ・交換頻度が多く(1~2週間)、カテーテルの挿入時には相当な苦痛が伴う。
- ・カテーテルが顔に固定されるため美容的に気になってしまう。
- ・カテーテルの圧迫で鼻腔付近に潰瘍が生じやすい。
- ・固定テープによる皮膚トラブルが生じやすい。
- ・カテーテルが気管に誤挿入された状態で栄養剤を投与してしまった事故も多数発生している。

②胃ろう・腸ろう



メリット

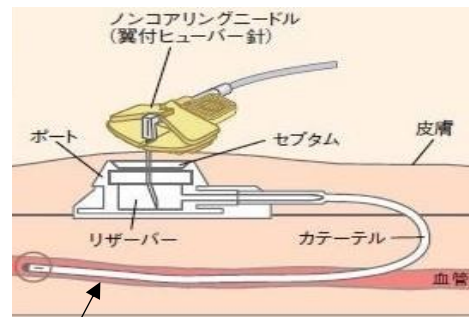
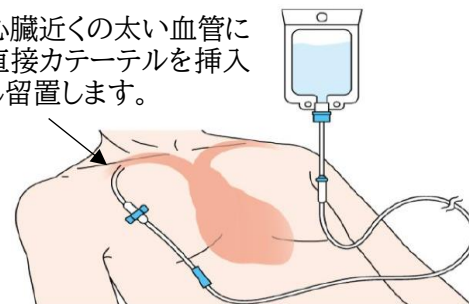
- ・見た目では分からない。
- ・チューブが服の中に隠れているので抜去事故リスクが減る。
- ・状況により経口摂取も可能。
- ・消化管を使用出来る。
- ・カテーテル交換時の負担が少ない。

デメリット

- ・造設のためには手術が必要なので、身体状況によっては導入が出来ない可能性がある。
- ・カテーテル脇から消化液が漏れて、潰瘍を生じることがある。
- ・抜去事故が発生すると臓器や皮膚が破れ消化液の漏出、出血を起こす可能性がある。
- また、カテーテルを挿入している穴は24時間でほぼ完全に塞がってしまうので、そうなった際には再手術が必要になる。

③中心静脈栄養

心臓近くの太い血管に直接カテーテルを挿入し留置します。



【CVポート】

胸のあたりの皮下に埋め込む装置で、必要な時だけ針をさして使用出来、本人の負担が軽減出来ます。

メリット

- ・消化管が使用出来なくてもある程度の栄養補給が可能。

デメリット

- ・抜去事故を起こすと大出血を起こす。
- ・消化管機能が低下し感染に対する防御力が低下する。
- ・血管内に細菌が入り込み感染症のリスクが高まる。
- ・血管内に直接栄養が流入するため、高血糖になりやすい。

—今を見つめ直す—

食事を摂れなくなることは、多くの方が直面する、いわば人生における課題の一つです。経腸栄養や点滴は延命措置でもありますので、少しづつ情報を集め、そして大切な人と話し合っておくことはとても大切です。

当たり前に出ていることが出来なくなる未来は想像しがたく、とても辛い気持ちにもなりますが、今の健康は決して当たり前ではありませんし、永遠には続きません。将来を見据えることで、目の前の現状を見つめ直し、“健康を維持していく大切さ”を考える、1つのきっかけにさせていただければと思います。



愛犬② リッキー
令和5年4月19日に虹の橋を渡りました。
最期まで本当によく頑張っていました。
ウインクが素晴らしい！

司法書士事務所オルティ
東京都杉並区高円寺南 4-41-10
UPBASE 高円寺 302
03-6161-6392
Mail: info@alty-law.jp
HP: <https://alty-law.jp/>

ご意見・ご質問・テーマのリクエストなどございましたら、お気軽にご連絡ください。